

多治見の街道～下街道～

恵那大井宿の西にある榎ヶ根で中山道から分岐し、瑞浪、土岐、多治見を經由し名古屋へ通じる脇往還が「下街道」と呼ばれる街道です。下街道は多くの商人や伊勢参り・善光寺参りの旅人が通行したり、この地域の特産である美濃焼を名古屋へ運ぶための重要な道でした。

内津峠の境杉

尾張国と美濃国の境である内津峠には「境杉」と呼ばれる杉の大木がありました。

難所・内津峠

池田から内津峠へ約8キロの長い坂は荷を運ぶ人々にとって大変な難所でした。

宿場町 池田町屋

池田町は下街道の宿場町として宿屋や商店が多く建ち並ぶ賑わいのある町でした。



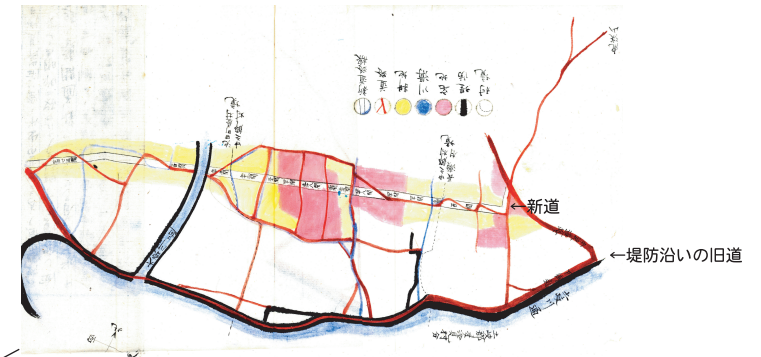
池田町にある道標

(池田町4 JAとうと角) 道標(明治12年)

下街道と今渡街道(可児市今渡への道)の分岐地点には、「左きふたにくみ道(岐阜・谷汲道)、左なごやいせ道、右東京ぜんこうじ道」という道標が建てられています。

清水の地蔵(田代町)

旧中之郷村(現田代町、前畑町近辺)は下街道筋の村でした。行きかう人々が一息ついでのをうるおした「清水の地蔵」が今も残っています。



下街道付け替え工事願書(多治見市所蔵 児島家文書)

下街道付け替え工事

土岐川沿いの堤防道だった下街道は大水の度に道が崩れたりする通行に不便な個所でした。明治20年(1887)に現在のながせ商店街の通りへ下街道を付け替えました。



陶器商が立ち並ぶ戦前の本町5丁目付近。大正時代には20軒以上の陶器商が軒を連ね、周辺の窯場からは荷馬車に載せられた陶磁器が運ばれてきました。

多治見橋で川をわたる下街道

川北の長瀬村と川南の多治見村が隔年で多治見橋を架橋しました。しかし土橋程度の簡単なつくりであったので夏季の増水で毎年流失していました。増水期は渡し場があり、行きかう人々や荷物を舟で対岸へ渡しました。

— 下街道
— 現在の道路

郷土のことについて調べるなら
郷土資料室へ

多治見市図書館郷土資料室

【場所】 多治見市豊岡町1-55 まなびパークたじみ4階 JR多治見駅より徒歩5分

【電話】 0572-23-3783

【開室時間】 火～土曜日 10時～17時(日・月・祝日・年末年始は休室)

※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください